



12月号で従来のお葬式の流れを紹介致しました。
今回からは、最近増えて来ている
新しい形のお葬式を様々ご紹介していきます。

家族葬とは？

家族葬という言葉は近年定着して来ましたが、「家族葬」には明確な定義はありません。あえて言うなら「家族を中心にして少人数で行う葬儀」となります。

一般のお葬式とは異なり、家族や友人等故人をよく知る親しい間柄の人のみで故人を送り出します。

式の内容に特に決まりはありませんが、仏式で行う人が9割。従来は葬儀で参列者が少なく、簡素化したものと考えられると良いでしょう。家族葬は自宅でも行えますが、斎場で行う人も増えています。

一般的な葬儀との違い

1. 都市部の核家族が中心

実際に家族葬を行うのは、都市部の核家族が多い様。それ以外の地域では、葬儀は周囲の人達が協力するという慣習が生きている所が多い。

2. 葬儀後死亡の通知を出す

家族葬では、参列者を限定する為、葬式後に参列者以外の関係者へ死亡の通知を出す。

3. 祭壇はシンプル

祭壇や焼香台は概ねシンプル。中には祭壇自体をやめ、花で飾った棺と焼香台だけを置く事も。

4. 香典・供物・供花

辞退する事もある。その場合はあらかじめ「こういう形式の葬式なので」と、失礼のない形でお断りを

する様に。

5. 会葬礼状・返礼品

一人ひとりに直接お礼が入れる家族葬では、会葬礼状・返礼品は出さない事が多い。

家族葬のメリットデメリット

メリット

①家族・親類・親しい友人等、悲しみを心から共有出来る人だけで送る事が出来る

家族葬の場合は家族・親族・ごく親しい友人等4〜30人位に範囲が絞られる。心より故人を慕う者だけでお別れが出来る。

②義理やしがらみに囚われないゆっくりしたお葬式が出来る

規模が小さく、生前の故人を知らない様な付き合いだけの参列者で時間を取られる事もない為、時間の余裕が十分出来る。それにより遺族の心身の負担が軽くて済む。

③納得のいく費用の掛け方が出来る

参列者が少ない分、飲食代の費用は安くなる。又、祭壇はいらぬ、棺は簡素に等、必要な物の費用は切り詰め、花の装飾等こだわり部分にお金を掛ける事も出来る。

④自分達の手で見送ったという充足感を持つ

葬儀の内容・段取り等、家族で考え葬祭業者と話し合いながら決定していく為、自分達の手で見送ったという充足感を持つ事が出来る。その結果、遺族が死を受容し易くなる。

デメリット

①周囲に理解を得られない場合がある

新しい形のお葬式の為、世間体を気にする親族に反対される事がある。従来通りのお葬式のイメージがある人には、誤解や不快を感じる懸念もある。

対処法／親族には、もしあればエンディングノート等を見せ、故人の強い意志である事・生前に家族で話し合った結果である事を説明し、分かって貰う事。

②家族・親しい間柄以外の人の思いを汲めない

参列のリストから漏れた、最後のお別れをしたいと願う故人の友人から不満の声が上がる可能性がある。

対処法／そういった場合は、家族葬の後に友人・知人を招いて「お別れ会」を開く事も検討する。

③弔問の人が次々来る

故人の交友関係が家族の認識以上に広がった場合、家族葬の後にも故人の知人等が区切りなく次々と弔問に訪れる事がある。盆や四十九日を問わず、突然の来訪も多い

為、毎日が気を抜けない状況になる場合も。

考え方／煩わしいかもしれないが、考え次第。個別に話をする事で、遺族が知らなかった故人の一面が分かり、心が癒される事も。

家族葬をしたい時は

家族葬は増えていく傾向にはありますが、どの葬儀社でも対応出来る訳ではありません。

対応する葬儀社は簡単にネットで検索・予約する事も可能ですが、臨終からの慌しさを考え生前予約をしておくのがよいでしょう。又、出来れば葬儀社数件に直接電話で話を聞きましよう。そして事前に相談に乗ってくれる所であれば、直接葬儀社へ足を運び、各社の対応の良さ・設備・規模・人等を実際に見てみる事をお勧めします。

